

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	4282400019		
法人名	医療法人伴帥会		
事業所名	グループホーム椿高野(ユニット名 椿高野)		
所在地	長崎県雲仙市愛野町乙2314-5		
自己評価作成日	平成29年8月17日	評価結果確定日	平成29年10月28日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaijokensaku_ip/42/index.php?action_kouhyou_detail_2014_022_kani=true&amp;JigyosvoCd=4282400019-00&amp;PrefCd=42&amp;VersionCd=022">http://www.kaijokensaku_ip/42/index.php?action_kouhyou_detail_2014_022_kani=true&amp;JigyosvoCd=4282400019-00&amp;PrefCd=42&amp;VersionCd=022</a>
----------	---

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	有限会社 医療福祉評価センター		
所在地	長崎市弁天町14番12号		
訪問調査日	平成29年9月13日		

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

<ul style="list-style-type: none"> <li>・法人内の病院、同敷地内には老健施設があり24時間365日の連携体制を備え安心できる環境を整えている。またスタッフのほとんどは10年以上勤務しており、ご家族入居者とも厚い信頼関係を築けており安心感を持って頂いている。</li> <li>・音楽療法士、理学療法士、言語療法士等専門職とも定期的、継続的に関わりをもち、生活上の助言を頂き日々のケアに活かしている。</li> <li>・職員の8割が介護福祉士資格を所持しており高い専門性を有している。また職員全員が法人内の9つの委員会に所属し接遇や事故防止、感染症対策等の専門的知識の習得と情報の共有をし、ケアの質の向上に努めている。</li> <li>・ご自宅やなじみの場所への個別外出支援を行い、その方が大切にしてきたものや習慣を続けていける為の支援をし地域とのつながりを大切にしている。</li> </ul>
--

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

<p>ホーム内は、広い窓から光が差し込み、明るく気持ちの良い空間になっている。各居室も、広く窓をとり十分な広さが確保されている。各居室にトイレと洗面所を設置し、入居者の状態に合わせて家具の配置を検討して安全な環境を整える等、入居者の残存能力を活かした自立支援に力を入れている。職員間でのコミュニケーションが構築され、相談や意見、提案を出しやすい環境が整っている。職員の提案が積極的に運営に反映される事が、職員の働きやすい環境と働く意欲を引き出し、長期間勤務する職員の確保に繋がっている。また、馴染みの美容室や寿司屋に行く、買い物に行く等、日常的な外出支援を積極的に行う事が、入居者のその人らしい暮らしや生きる意欲、笑顔に繋がっている。入居者の気持ちに寄り添う今後が期待されるホームである。</p>
--

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

## 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	当ホームオリジナルのケア目標を掲示板に掲げている。スタッフそれぞれが心に留め、職員間で共有しながらケアの実践に繋げている。	法人の理念に基づき、全職員で意見を出し合って「ケア目標」を作成している。目標に沿って支援するためには、入居者の今までの生活と好きな事を継続する事が大切と考え、スタッフ会議で入居者一人ひとりの支援内容を検討し、支援を統一して理念に沿った実践に繋いでいる。	理念とはホームが常に立ち戻る根本的な考え方である。法人の理念に基づき、ホーム独自の理念を全職員で話し合い作りあげて期待したい。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 平成29年8月17日	職員の半数ほどが近隣町内に在住しており、日常的に交流している。また事業所としても町内の夏祭りに出店したり、近隣の店に買い物に行くことで店の方との顔なじみの関係が築けている。	法人開催の「春、秋まつり」に地元の人が参加し顔見知りになる、買い物時に近所の人と話しをする、日常的に地域の人がホームを訪れ、会話を楽しんだり、野菜の差し入れがある等、普段の暮らしの中で地域と繋がるように支援している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	学生の体験学習、実習を受け入れ認知症介護に触れて頂いている。又、見学希望者の見学時には『認知症について』『認知症介護について』『グループホームの特徴』をお話している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では写真付き資料でわかりやすく取り組み状況を報告している。会議はランチミーティング形式を取り実際の昼食を食べて頂き意見を頂いている。	運営推進会議の前には出席者はホームで一緒に昼食をとり、和やかな雰囲気の中で会議が行なわれる等、意見が出やすい環境を作っている。会議の中で避難訓練に関する意見が出され、それを受けて防災委員を中心に「避難マニュアル」を検討して見直す等、出席者からの提案をサービスの質の向上に活かしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	日頃から市町村や広域圏担当者へ電話連絡し相談して助言を頂く、という協力体制が築けている。	夜勤体制や事故報告書等、運営に関する相談を行政と頻繁に行っている。地域包括支援センター主催の研修や事例検討会に参加し、地域包括支援センターからの相談を受ける等、行政とは日頃から顔の見える関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束委員会を中心に日常のケアが身体拘束につながるか話し合っている。入居者の安全面を考慮し、ご家族、入居者に説明し同意を得て玄関の施錠をしているが、解除に向けた検討を続けている。	ホーム独自の「転倒・転落アセスメントチェックシート」により入居者の身体的、精神的状況を把握し、スタッフ会議で情報を共有して、拘束のない支援内容を検討している。日常の言葉かけにも注意を払い、抑圧感のない暮らしを支援するために、管理者が常に職員に問いかけ話し合いを行っている。また、家族とも予想されるリスクを率直に話し合っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束委員会を中心に身体的虐待、接遇委員会を中心に心理的虐待について話し合いを行ったり、研修に参加し学ぶ機会を設けている。日頃から入居者に対する言葉かけ、対応について気づいた点はその都度、職員間で話し合い、虐待防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度を利用されている入居者の方もおられた為、社会福祉協議会や後見人の弁護士とも連携し制度の実際を学び活用できている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には、事業所のケアに関する考え方や取り組み等を十分に時間を取って説明している。ご本人ご家族の不安や疑問をお尋ねし理解を図っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者の方には職員が居室を訪問しとゆったり過ごせる時間の中で生活の要望や意見等を引き出す工夫を行っている。ご家族様には、ご面会時にご意見疑問を口頭でお尋ねする他、意見箱の設置をし意見の収集を行っている。	職員は入居者の言葉に常に耳を傾け、入居者の要望や意見を引き出す努力をしている。家族にも面会時に声をかけて話しをするように心がけている。夕方に入浴したいという入居者の要望を受け、1日の流れを検討して、1日3回の入浴時間を確保して希望する時間に入浴できるようにする等、運営に反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	法人内に9つの委員会の設置があり、職員それぞれが所属して多角的視野で業務を振り返ることができ、創造力や気づきを活かす取り組みを行っている。	職員間で話しやすく、相談しやすい環境が整っており、職員間での協力体制が構築されている。職員の提案で休憩時間を確保する、記録様式を見直す、勤務体制を工夫する等、職員の意見や提案を運営に活かしている。これが職員の意欲を引き出し、長期間勤務の職員確保に繋がっている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	事務長の訪問が日常的にあり、意見の収集や現状把握、関係づくりに努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	事務長は年2回個人面談を行い職員の意見を引き出し、やりがいのある環境づくりに努めている。法人内外の研修参加にも協力的であり、職員の学ぶ意欲の向上をサポートしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	雲仙市内21事業所とともに連絡協議会を設置、加入し定期会議や研修会、風船バレー大会等を通じ、情報交換、相互交流を行っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前にご本人と面談し、ご本人の思いを理解するように努め、安心して来て頂けるような環境や関係作りを行っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前にご家族と面談し、家族の介護の苦勞や要望に耳を傾けながら関係作りを行っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時に本人や家族の思いなどを確認し、必要としている支援の提供を行う。他のサービスでも本人に合った支援を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	互いに協力し合って安心して生活できる環境や関係づくりに努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人の日常の様子を報告したり、相談などを受けている。面会や遠方の方へは電話でお話をするなど家族との関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの美容室や買い物また、昔から行きつけの寿司屋に行くなどしている。また、お友達が来られてもゆっくり過ごせるような環境作りをしている。	入所後も昔からの友人が多く訪問し、買い物にもよく出かけ、地域の人と話しをしている。友人達がホームで楽しく過ごせるように、職員が間に入り話しが弾むように工夫する、音楽療法に友人と一緒に参加して楽しむ等、これまでの繋がりを継続できるように支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士が楽しく過ごせるような場所の提供やスタッフが一緒になって参加し楽しんでいる		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去された方へ敬老の日のお祝いを持って行ったり、今までと同じような関わりをしている。また、ご家族とも道で会っても気軽に話しかけている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常生活の関わりの中で希望や意向を把握できるよう努め、スタッフ間での情報共有を行っている。	日頃から、担当職員が入居者と二人で話す時間を設け、コミュニケーションをとりながら、思いや意向を聞き取っている。聞き取りが困難な場合には、家族からの聞き取りを行い、表情や行動から汲み取るよう努めている。また、入居者が話しやすい職員が対応するなどの工夫をしている。聞き取った内容は、“ミーティングノート”に記録し、職員間で共有を図っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族に聞いたり本人とお話をしながら、今までの暮らし方等を聞き、生活歴の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの一日の過ごし方を把握し、その方の状態に合わせた対応を行い努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当者会議を開き、スタッフからの意見や家族、本人からの意見等にて本人に適したプランの作成や見直しをしている。	毎月、入居者の担当職員が介護計画の評価を行い、“ケアプラン会議シート”に記録し、それをもとに担当者会議にて、本人、家族の意向を取り入れながら、話し合いを行い、次の計画へ繋いでいる。日々の介護記録に、介護計画の目標を書き込み、全職員がそれらを理解して支援できるようにしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子を個別介護記録に記入し、スタッフ間で申し送りや情報の共有を行い、日々のケアに活かしている。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	一緒に外出したり、お墓参りに行ったり、訪問美容をお願いしたりと、できる限りその方のニーズに応えられる様にしている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	馴染みの美容室や店に買物や食事に出かけたり、地域の方から習い事をするなど、いつまでも地域とつながりを持てる様に努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人やご家族の希望を尋ね、母体の医療機関や馴染みのかかりつけ医、眼科や歯科、泌尿器科といった専門機関を受診出来るように支援を行っている。	希望により、歯科や眼科等、入居前からのかかりつけ医を受診している。法人内の病院をかかりつけ医としている利用者が多く、毎月1～2回、定期的に受診しており、かかりつけ医との連携が図られている。通院には職員が同行し、受診後は家族に連絡、報告を行っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週一回の看護師による健康チェック時に変化等を相談。助言を頂き受診が必要な場合はすぐに対応できるように支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時や面会時に病院での様子や経過を病院関係者と情報交換するようにしている。また、S.W等と毎週ミーティングを行い関係者との関係づくりや相談を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に看取り介護についての同意書を取り交わしている。また重度化された場合早い段階で再度ご本人や家族、医師、職員との話し合いを行ったうえで、納得して最期を迎えられるよう支援している。	入居時に”重度化した場合の指針”の説明を行っている。医師の判断により重度化した場合には、希望により、”看取り介護についての同意書”に同意を得ている。意向が変わった場合には、その意向に従い、対応を行っている。職員は、”これからの過ごし方について”の資料を用い、法人内の看護師による内部研修を受けている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	同法人の病院や老健にも協力を得、初期対応や応急手当の研修会や訓練を定期的に行い実践力を身に付けている。また、マニュアルの作成を行っており、定期的に見直しを行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。 また、火災等を未然に防ぐための対策をしている	災害ごとに応じたマニュアル・連絡網を作成し、スタッフや消防機関・地域の方と連絡が取れるようにしている。定期的に避難訓練を行い実践できるように努めている。また、定期的にコンセントのホコリチェック等を行ったり、食料品の備蓄など対策を行っている。	消防署立会いのもと、法人合同で、年2回の避難訓練とホームのみでの訓練を年5回行っている。防災マニュアルの他、台風マニュアル、積雪時の対応マニュアル、地震発生時の対応マニュアル等を整備している。3日分の食料と飲料水、カセットコンロ等の備品も備えている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	繰り返し同じ話をされる様な場合でもその都度話の傾聴したり、整合性のない話であっても否定せず最後まで話を聞くようにしている。また、言葉掛けにも注意するよう心掛けている。	排泄時の声かけや、失禁時には、他の人に聞こえないよう配慮し、居室にて着替えを行っている。職員は、全員、法人内で行われる”接遇研修会”に参加している。また、法人内の職員による、抜き打ちの”接遇ラウンド”のチェックが年3回、5段階評価で実施されている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	新聞広告での通販の買い物や、知人への手紙の投函など、日常生活の中でも自己決定の機会を多く持てるよう支援している。手紙は定期的に、電話も連絡がとれるよう支援できている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の中でおおよその日課はあるが、一人ひとりのペースで一日一日を過ごしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人より希望、また定期的に美容師を招いて、カットしてもらっている。一人ひとりの好みの洋服を一緒に選んだり、聞いて準備したりしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の好みを把握し、一人ひとりに合った食事・形態を提供する事ができている。食器、おぼんを拭くお手伝いをして下さっている。	職員が持ち回りで一週間分の献立を作成し、手作りの食事を提供している。入居時に嗜好調査を行い、日頃の食事の様子も見ながら、好み等の把握に努めている。職員と共に食卓を囲むことで食事を楽しむ環境を整えている。誕生日はリクエスト食やケーキ、外食など行っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食後の量と水分をチェックし、記録する事で一人ひとりの栄養バランスがとれているか把握できている。摂取量が少ない方には、声掛けを行い摂取して頂くよう促している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	介助を要する方には、ブラッシング、拭き取りを行っている。自立者は、声掛け、見守りを行い一部介助にて歯間ブラシでの仕上げを行っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	各居室にトイレがあり身体機能に応じた介助・声掛けをしている。パット類は、ご本人にあった物を提供している。トイレでの自然な排泄が出来る様に支援している。	排泄チェックリストを活用し、トイレ誘導のタイミングを図っている。おむつの入居者も、日中はトイレでの排泄ができるよう支援している。各居室にトイレが完備され、プライバシーも確保できている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	腸の働きを促すため毎日、乳製品の提供をしている。排泄チェック表を活用し排便の確認を行っている。調理を工夫し軟らかい物や消化のよい物を提供している。個々に応じて適度な運動が出来るよう支援している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	個人の体調やタイミングをみて、声掛けを入浴して頂けるよう支援している。菖蒲湯や柚子湯などを取り入れ季節を感じて頂けるよう工夫している。	個別で、週2～3回は入浴できるよう、支援している。希望があれば、いつでも対応している。重度の入居者には、二人体制で介助し、法人内に設置されている機械浴を使用することもある。入浴拒否があった場合には、時間をおいて誘うなど、工夫して対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ご本人の体調やペースに合わせて休んで頂いている。行事や外出等で疲れが見られる時等、ご本人の状態に合わせて声掛けを行い休んで頂いている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服用中の薬剤について理解し、誤薬や未服薬がないようスタッフ2名で確認を行っている。服用後に異変があった時は、主治医に報告し相談・指示を受けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の身体能力に合わせてお盆拭きや新聞折りをして頂いたり、調理の下拵えを手伝って頂くなど、その方に合った役割りが持てるよう支援している。また、楽しんで頂ける場面作りに努めている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	ご本人の希望に添って行きたい所へ外出したり、外食が出来るよう支援している。ご家族に協力して頂き、自宅への帰省や外出が出来るよう支援している。	馴染みの美容室へ出かけたり、買い物へ行くなど、積極的に外出支援を行っている。車椅子の入居者も、お花見や買い物へ出かけている。家族と日帰りの温泉や外食などに出かけている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	希望があれば一緒に買物へ行きご本人に直接支払いが出来るよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望に応じて電話や携帯電話を使用し自由に話が出る様に支援している。又、ご家族や友人への便りの投函を代理で行う等の支援をしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングは明るい陽射しが入るようになっていて。又、お正月・節分・七夕飾りなど季節に合った飾りを作成し壁に貼り、季節を感じられるようにしている。	リビングは、広い窓と天窓から光が入り、明るい空間となっている。天気の良い日は、デッキに出て、お茶を楽しむこともある。季節が感じられるよう、花や飾りつけを行っている。においが籠らないよう、アロマを活用し、心地よい空間となるよう工夫している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	一人ひとりの状態の変化、利用者同士の関係性を配慮し、リビングや廊下居室に椅子を置きゆっくり過ごせるよう工夫している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者が仏壇や好きな本等馴染みの物や写真思い出の品々を持ち込んで頂き、居心地良く過ごせるように、ご家族と協力しながら空間作りをしている。	リビングを囲むような居室の配置で、職員が見守りやすい間取りとなっている。広い居室の窓も大きく、和の間接照明が設けられ、落ち着いた雰囲気のある居室である。各部屋に洗面、トイレが備え付けられており、プライバシーが確保できる居室となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ご本人の身体状況に合わせ、ご家族と相談しながら物の配置を工夫し、ご本人がダンスに収納しやすいよう収納場所にテプラを貼り分かりやすくすることで自立した生活が送れるように工夫している。		